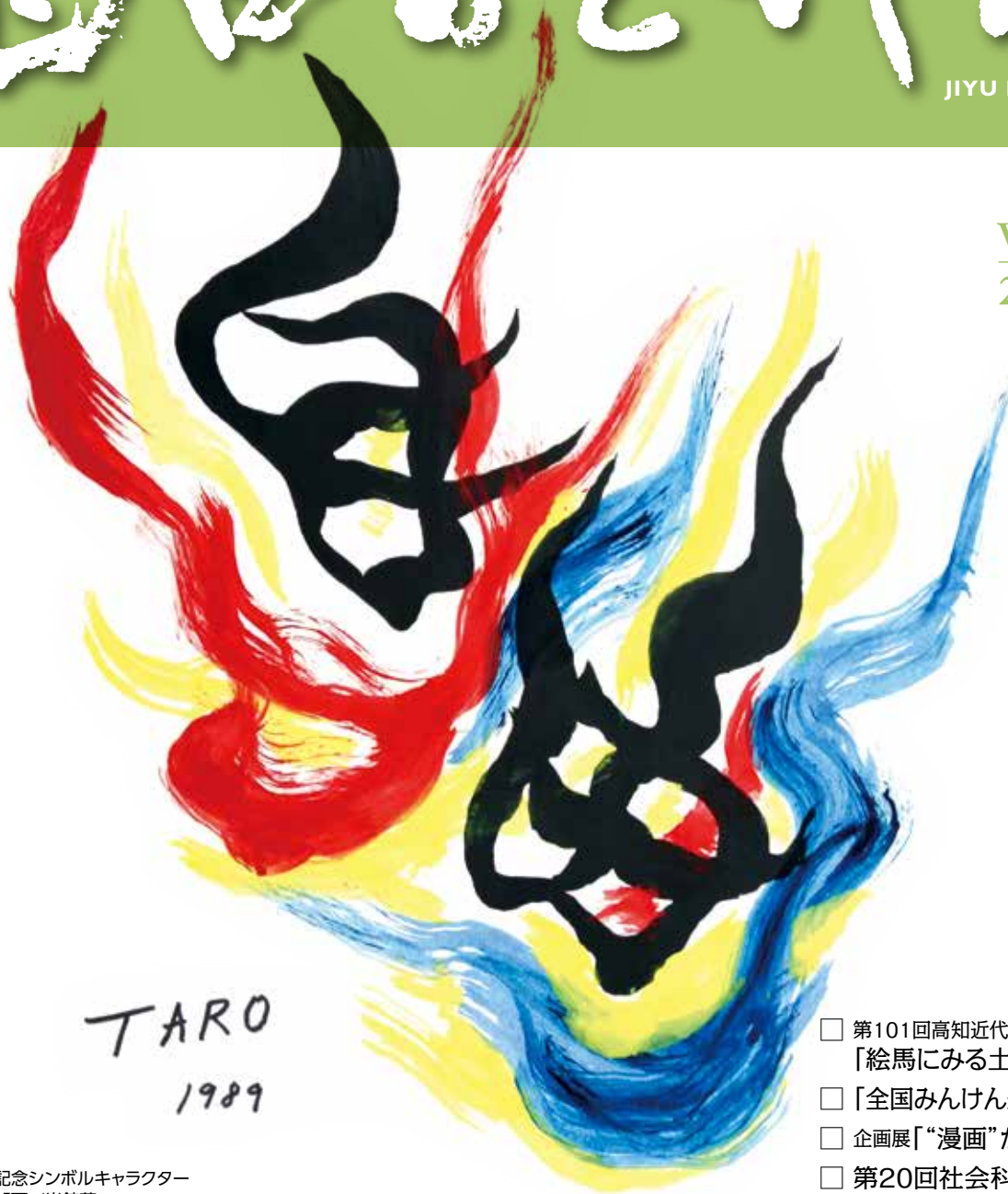


自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 88

2020 March



TARO
1989

- 第101回高知近代史研究会報告
「絵馬にみる土佐の庶民文化」
- 「全国みんけん連」第1回大会レポート
- 企画展「漫画」が描いた明治の時代」
- 第20回社会科自由研究作品展報告

高知市制100周年記念シンボルキャラクター
「自由な私」岡本太郎画／当館蔵

開館三〇周年にむけて

今年、高知市立自由民権記念館は、開館三〇周年を迎えます。多くの市民、県民そして研究者の皆様の御支援の賜であり、心から感謝申し上げます。

自由民権記念館は、高知市制一〇〇周年を記念して建設いたしました。この建設には、「自由民権記念館建設期成会」の皆様の粘り強い市民運動と、全国的に取り組まれました「民権百年」の熱気に後押しをいただき、完成を迎えることができました。

平成二年四月に開館した自由民権記念館はこの三〇年の間、資料収集・保存・展示・情報提供を始め、様々な活動を行い、自由民権運動や高知の近代資料の宝庫として、資料保存機関の役割を果たすとともに、多くの人々の知的要求に応えてきました。

高知は、坂本龍馬の活躍を始めとする幕末維新の諸々の出来事が大変有名ですが、全国の自由民権運動をリードした土佐の自由民権運動はそれに匹敵する重要性と教訓を残しており、正に誇りとするところです。

幕末維新一五〇年の事業は無事終了いたしました。次は「民権一五〇年」ではないかと思えます。それは自由民権運動の調査研究を一層推進するとともに、人権・憲法・国家・地方自治等の在り方について改めて考え、議論する機会とならなければなりません。

現在、自由と民主主義の価値が全世界で問い直されています。自由民権運動は、歴史に学び未来を切り開くために、汲めども尽きぬ経験と教訓を残しています。

自由民権記念館は、この「民権一五〇年」の一翼を担っていく使命があると考えております。

多くの市民、県民、全国の研究者の皆様の一層の御理解・御支援をお願い申し上げます。

高知市長 岡崎 誠也

絵馬にみる

土佐の 庶民文化

梅野 光興（高知県立歴史民俗資料館学芸員）

二〇二〇（令和二）年一月一八日、第一〇一回
高知近代史研究会で報告した要旨を掲載します。

一九九二（平成四）年八月、今から三〇年近く前に自由民権記念館で開催された「絵馬にみる土佐の歴史とくらし展」は本当に素晴らしかった。高知県の民俗学者・高木啓夫先生の調査成果をもとに、当時は若手だった筒井秀一学芸員（現自由民権記念館長）が中心になって実現した企画展である。絵馬殿をイメージして木材を組み上げた展示室内に一〇〇点を超える絵馬がびっしり飾られており圧巻だった。

とりわけ私の目を釘付けにしたのは、明治時代の風景や仕事を描いた絵馬である。明治以前の土佐人のくらしを描いた絵画や写真は極めて少ない。しかし、絵馬には当時の人々の姿が生生きと描かれていたのである。例えば土佐湾で行われる多様な漁と大漁を喜ぶ漁師たち、例えば川や軌道によって奥山の木材を運びだす山師たち、例えば大勢の人が集まる祭りの日のにぎわい…、ただの絵なのに人々の声

が聞こえてくるようだった。

二〇一八（平成三〇）年に高知県立歴史民俗資料館で開催した「維新が変えた庶民のくらし―絵馬や民具から読み解く高知の近代―」は、その時の興奮の一部でも味わって欲しいと企画した展示会だった。自由民権記念館で展示されていた絵馬もお借りした。一八九九（明治三二）年の酒造家図絵馬（琴平神社蔵）には、酒造りの様子とともに、前の道路を行き交う、馬や車力、担い棒、人力車などの姿が描かれている。他にも電柱やガス灯風の明かりも見え、近代化が進む時代の雰囲気を実感できる。

「絵馬」展で展示されていたなかった絵馬に、香南市土佐山田町間の直会絵馬（一八七九（明治一二）年、須賀神社蔵）がある。神事の後の宴会で老若男女が杯を傾けご馳走に舌鼓を打っている様子が描かれている。皿鉢を囲む人や箸拳に興じる人など、明治時代はじめての「土佐のおきやく」の絵画として貴重である。（写真1）



写真1 「直会絵馬」(部分) / 1879(明治12)年 / 須賀神社蔵

小さな子供の髪型にも目を引かれる。頭頂部と、耳の手前、そして首筋を残してそり上げているのだ。不思議な髪型だが、土佐の民俗学者・桂井和雄氏の「爺髪への疑問」によると、子供の首の後ろのうなじの窪み（盆の窪）の髪をそり残す習慣があったようだ。乳幼児が川に落ちたり、囲炉裏に落ちたりした時、オブの神がこの髪を持って引き上げてくれるからだと言う伝承もある（津野町芳生野）。香南市（旧香我

美町）山北では、盆の窪と両鬢、頭のいただきなどに髪を残すとあり、まさに絵馬の子供の髪型に一致する。絵馬の情報の精度に驚かされる。絵馬恐るべしだ。

その一方、絵馬は所詮絵であるとの認識も必要だ。明治の風俗を散りばめた酒造家図絵馬が、南国市琴平神社や高知市介良の朝峯神社などにある。電柱や車力、郵便配達員や買物客の女性などが判を押したように同じポーズで描かれているが、配置が異なっている。酒屋の店先の賑わいは実景を写したものでないのだ。絵馬の絵が写真ではないことは、絵馬から歴史や風俗を研究する時には注意すべきだろう。

それでも、くらしや仕事を描いた絵馬が、時代の息吹を伝えてくれるのは間違いない。絵馬は非日常に彩りを与える絵画作品であり、村の歴史や記憶を伝える歴史資料でもある。絵馬を飾る神社や寺は、村の美術館であり、歴史博物館であったのだ。これからも絵馬によって地域の記憶が後世に伝えられることを願ってやまない。



写真3 「酒造家図」(部分) / 1909(明治42)年 / 朝峯神社蔵



写真2 「酒造家図」(部分) / 1909(明治42)年 / 琴平神社蔵

「全国みんけん連」

第一回大会レポート

二〇一九（令和元）年一〇月二〇日、東京（大正大学）で、全国自由民権研究顕彰連絡協議会（略称「全国みんけん連」）の第一回大会が開催されました。同会は、二〇一八（平成三〇）年一二月二日に結成されたばかりの新しい学術団体です。

一九八〇年代、横浜市・東京都・高知市で三回の全国集会が開かれるなど、全国的規模で「自由民権百年



運動」が展開されました。「全国みんけん連」はこの「自由民権百年運動」の趣旨を継承しつつ、年二回以上の連絡協議会や研究会を開催することで、全国各地の研究者らが交流・情報交換を行い、研鑽に努めることを目標としています。自由民権運動の研究と顕彰のための連絡・協議を行う、初めての全国的な学術団体となります。

記念すべき創立大会のテーマは、「いま再び“民権と自由”に集う」。北は北海道、南は鹿児島県まで全国からおよそ一〇〇名の参加があり、広い会場がほぼ満席になるほどの賑わいでした。

まず記念講演では、一橋大学教授・石居人也氏により、「明治百年」「自由民権百年」を振り返りながら、現在の民権研究・顕彰への提案、問題提起が行われました。講演後の質疑応答では「各地域ではどのように取り組んでいくべきか」といった質問が出るなど、会場全体で、より具体的な研究・顕彰方法についての議論がなされました。

次に、「若手研究者からの風」と題された研究報告では、法政大学大

院博士課程・飯塚彬氏により、自由民権運動とその担い手についての研究発表がなされました。地域における運動の「担い手」個人は近世的な基盤を持ちながらも、活動面では近代的なものに脱皮していくその過程を、茨城県の事例を中心に紹介する内容でした。

さらに、「地域の研究・顕彰会からの風」では、渡良瀬川研究会・板橋文夫氏による活動報告がなされました。渡良瀬川研究会は、一九七五（昭和五〇）年の設立以来、約二〇〇名の会員を擁する大規模な研究会で、会誌・会報の発行やシンポジウムなど多様な活動を展開されています。時代に合わせながらも、学習に裏打ちされた実践を通して、息長く活動を継続していきたい、という話が印象的でした。

こうした報告と合わせて、会場内では全国各地の団体の会誌や活動報告の資料が配布されており、大会全体を通して、民権研究についての貴重な情報共有の場となりました。

「全国みんけん連」の成立過程と第一回大会の詳細は、当館紀要第二五号（二〇二〇（令和二）年三月発行）に掲載します。合わせてぜひ御覧ください。

全国自由民権研究顕彰連絡協議会第1回大会 —いま再び“民権と自由”に集う—

日時 2019（令和元）年10月20日（日）13:00～17:20
会場 大正大学 1号館（本部棟）2階大会議室
内容
・記念講演＜研究の新たな発展のために＞ 一橋大学教授 石居人也氏
「われわれ」の歴史から「わたし」たちの歴史へ—「自由民権百年」の底流からたどる—
・研究報告＜若手研究者からの風＞ 法政大学大学院博士課程 飯塚彬氏
自由民権運動とその担い手について—茨城県の事例を中心に—
・研究・顕彰報告＜地域の研究・顕彰会からの風＞ 渡良瀬川研究会 板橋文夫氏
主催 全国自由民権研究顕彰連絡協議会（全国みんけん連）
顧問/安在邦夫 新井勝紘 代表/福井淳 副代表/筒井秀一 事務局長/松崎稔



大会チラシ

漫画“が描いた明治の時代

◆期間 二〇二〇(令和二年)四月二十五日(土)～二〇二二(令和三年)三月二十八日(日)

◆会場 二階 特別展示室

※常設展観覧券が
必要です。

幕末から明治へと移り変わる時代の記録は様々な資料に残されていますが、印刷技術の発達に伴い普及した新聞・雑誌で重用された風刺漫画もその一つといえるでしょう。文字で綴られた内容をより効果的に伝えるとともに、新しい事物を描くことはそのまま時代を記録することになったのです。そして、自由民権運動期には、その潮流に乗って、社会の内面を巧みに切り取り、批判的な視点から時代を描き出した風刺漫画が数多く生み出されました。そこには、当時の人々の生活やその背景にある社会が映し出されています。

本企画展では、社会や世相を風刺し、あるときはユーモアを込めて描いた“漫画”から、明治の時代を振り返ります。

『團圓珍聞』の世界

自由民権運動が広まる明治初期に創刊された『團圓珍聞』は風刺漫画を売り物にし、多くの人々に親しまれました。政府や権力者を批判し、弾圧を受ける側への共感を込めた風刺や戯画が多数掲載されています。

そこには、厳しい言論弾圧への対策として、人物を動物などになぞらえて描いたり、同音または類音の言葉を用いて表したりと、色々な仕掛けが隠されています。



「長寝の耳に痛い木枕」小林清親画(『團圓珍聞』第687号付録)／当館蔵

す。風刺漫画の魅力と面白さを楽しみながら、当時の社会や世相を読み解きます。

時代の目撃者「ビゴ」と中江兆民

フランス人画家のジュールジュ・ビゴは、日本近代漫画の発展に大きな足跡を残した一人です。自由民権運動の代表的思想家である中江兆民とも関係が深く、一八八五(明治一八)年から翌年にかけて、兆民が開いた仏学塾のフランス語教師を務めています。また、風刺雑誌『トバエ』の発行に際しては、兆民、あるいはその高弟が、日本語キャプション作成に協力

するなど、深い親交関係にありました。

そこで、兆民との接点を含め、外国人・ビゴが見た日本の風俗、そして政治に対する痛烈な風刺を紹介いたします。



「メンザレ号の救助」ビゴ画(『トバエ』第9号)／当館蔵

高知における新聞挿絵の先駆者

自由民権運動に対する厳しい言論弾圧が続くなか、新聞発行に対する方針転換を迫られた民権派は、一八八三(明治一六)年より『土陽新聞』を絵入とし、大衆の啓蒙路線に転換しました。この時、坂崎紫瀾は、「汗血千里の駒」の連載を開始します。同小説の挿絵を担当したのが、山崎年信と、その弟子である藤原信一で、新聞の発行部数と売上の増加に大きく貢献しました。若くして夭折した天才肌の年信、晩年に「独立大家」としての地位を築いた信一、高知における新聞挿絵の先駆者である二人の業績を振り返ります。

明治の時代を回顧する

大きな出来事から時間を経ると、それを回顧しようとする動きが出てきます。

記念講演会

「汗血千里の駒」の挿絵画工
山崎年信の画業

講師 ● 中村茂生氏(高知近代史研究会会員)
日時 ● 2020(令和2)年5月30日(土)
午後2時～4時
会場 ● 1階 民権ホール

- 『藤原信一 挿絵等資料集』を進呈
- 講演会終了後、特別展示室において担当者による展示解説を行います。

申込不要
参加無料



「遷都」北澤楽天画(『肉筆漫画開国六十年史図絵』)／当館蔵

これは、学問研究やジャーナリズムだけでなく、子ども向けの出版物や風刺画の世界にも及びます。今回展示をする『肉筆漫画開国六十年史図絵』は、北澤楽天、岡本一平など当時第一線で活躍していた大正・昭和を代表する画家・漫画家たちが、風刺画で開国以後の歴史を振り返ったものです。取り上げられた項目によって、その時代の歴史感覚が垣間見られると思います。

藤原信一

(一八四六〜一九三〇)



1883(明治16)年5月29日付『土陽新聞』に掲載された藤原信一の自画像挿絵。肖像写真の残されていない信一の容姿を今日に伝えるもの。

画工(絵師)となった。同新聞時代の代表作には、「汗血千里の駒」(落款では年信三八点、信一八点を確認)、吉村虎太郎を描いた「南山皇旗の魁」などがある。信一は、浮世絵風美人画を得意としながらも、庶民生活の人情、風俗、世相を想像力豊かに生き生きと描き、『土陽新聞』の発行部数と売上げの増加に大きく貢献するとともに、自由民権思想の啓蒙・普及に大きな役割を果たした。



『土陽新聞』1883(明治16)年9月22日付 龍馬の甥・坂本直寛を描いている。これからの新国家建設は、自由民権運動が担うという強いメッセージ性が込められている。

明治初期の新聞挿絵画家としてまず挙げられるのは、月岡芳年と落合芳幾であるが、高知における新聞挿絵の嚆矢は、月岡芳年の弟子・山崎年信(以下「年信」と、年信の弟子・藤原信一(以下「信一」)である。一八四六(弘化三)年生まれ。信一は、もともと大阪の歌舞伎役者・二代目尾上多見蔵の門人で、多見尾という女形俳優であったが、一八八二(明治一五)年、巡業のため高知入りしたことが縁となり、月岡四天王筆頭と称された天才肌の絵師・年信と運命的な出会いを果たした。そして、自らの天賦の才と「寝食を忘れた血を吐くほどの苦学」(沖野一秋談)により、驚異的な速さで挿絵技術と画力を向上させた。

一八八八(明治二二)年一月一日創刊『東雲新聞』に招かれた信一は、同新聞の画工(絵師)となり、『土陽新聞』の後継画工として、『高知日報』から自ら引き抜いた中谷一近や沖野一秋を育てた。『東雲新聞』時代の信一は、引き続き一八九一(明治二四)年七月頃まで『土陽新聞』に挿絵を描いており、その他、多くの地方新聞・雑誌からの依頼も積極的に受けていた。

その後、信一は、『毎日新聞』の稲垣年恒とともに「関西の双壁」と称されるほど名声を博し、信一の画才にほれこんだ黒岩涙香の懇願により、『萬朝報』への入社を決意した。そして、一八九二(明治二五)年一月一日創刊『萬朝報』で、題字周囲の宝尽を描くことを任せられ、新

聞経営状況が厳しい時には、ほぼ無償で挿絵を描き、涙香を側面的に支援した。一方、『萬朝報』入社により東京浅草に居を移してからは、菊池容斎の門人で、花鳥画に新機軸を開いた渡辺省亭に学び、挿絵だけではなく、錦絵を数十点残した。

『萬朝報』では、一九〇〇(明治三三)年二月頃まで継続的に挿絵を描いていたが、信一は、晩学にして英語を学び、一九〇四(明治三七)年二月から一九〇六年(明治三九)年三月上旬にかけての約二年間、絵画研究を主な目的とし、北米大陸を旅行した。日本を出発したのは、日露開戦間もない一九〇四年二月一日のことである。信一は、日本郵船などの船が戦時統制により自由に航海できなくなる可能性を見越し、廃船同然の貨物船に乗り込みポートランドに向かったが、太平洋上で嵐に遭い、遭難寸前となるも奇跡的に難をのがれ、オレゴン州アストリアの港に辿り着いた。その後、同州ポートランド、カリフォルニア州オークランド、同州サンフランシスコへと移動し、同年四月三〇日から開催されたミズーリ州の「セントルイス万国博覧会」を特派員として取材するため、大陸間横断鉄道で同地に移動し、同年六月から八月にかけて、万博の様々な館を描いた挿絵等を『萬朝報』に掲載した。また、セントルイスからは、同年一二月頃、ニューヨーク州に移動し、凍結したナイアガラの滝を見聞した。その後、サンフランシスコに戻り、一九〇五(明治三八)年一月頃、アラスカ州ノームの地に入り、アラスカ先住民族(イヌイット族)の風俗を「北米アラスカ風俗」として、同年二月二〇日から



『鉄仮面 正史実歴 下』口絵(信一画)／当館蔵

三月二四日まで『萬朝報』に連載した。そして一九〇六年一月二八日、サンフランシスコの港から亜米利加丸に乗船し、途中ハワイ諸島に立ち寄り、同年三月上旬、帰朝した。そして、帰朝後の三月二七日から五月八日の間、信一の失敗談を満載した「アメリカ絵紀行」という挿絵入り見聞録を同紙に掲載した。

明治末から大正期頃の信一の詳細な足取りは不明であるが、信貴山(現在の奈良県生駒郡平群町)朝護孫子寺の国宝「信貴山縁起絵巻」の模写の依頼を受けたことが契機となり、一人娘の廣子とともに同地に居を移した。そして、一九二〇(大正九)年頃、絵巻の模写を完成させたが、その後も信一は、信貴山に留まり、一九三〇(昭和五)年一月二八日、廣子にみとられ死去した。なお、信一は「大正九年帝国絵画番附」によると、山田東洋、秋吉蘇月ら二〇名とともに高位の「独立大家」に格付されていた。

第20回

社会科自由研究 作品展報告

前期 令和2年1月22日(水)～2月6日(木)
後期 2月8日(土)～2月24日(月・振休)
共催 高知市教育研究会社会科部会



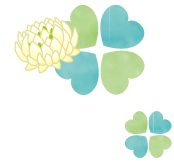
表彰式

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で20回目となります。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」「体験」など全8分野に数々の力作が出品されました。

小学校31校、義務教育学校1校、中学校3校から合計245点の応募があり、その中から39点を特別賞に選定し、



「高知大学寄附部」による「マジックショー」



皆様、どうもありがとうございます。来年もよろしくお願ひします。



展示の様子

2月1日(土)には表彰式を開催しました。

期間中1,569名の皆様に御覧いただきました。

実施したアンケートでは、「高知の子どもたちの素晴らしさを感じた」「他の小学校の作品が見られて嬉しかった」「来年の自由研究の参考になった」「受賞作品のレベルが想像以上に高く驚いた」「低学年の子でも参考になる内容だった。毎年続けてほしい」など、様々な御意見をいただきました。

第20回社会科自由研究作品展 特別賞39作品

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名	賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
自由民権記念館特別賞	人物	第四小学校	5	川崎 智貴	坂本龍馬 脱藩の道を歩いてみて	よさこい民権賞	総合	小高坂小学校	2	徳平 健佑	地しんがおきたらどうしよう
	総合	第六小学校	5	関 倫花	私のルーツをたどる!			横浜小学校	4	林 侑俐亜	誰かのために出来る事 ヘアドネーション(髪の寄付)
	環境	潮江東小学校	5	久武 應介	江ノ口川を守ったヒーロー (山崎さんと生コン事件)			春野東小学校	5	今城 寛登	株式会社と株の研究
	地理・文化	鴨田小学校	5	森本 眞由	高知の皿鉢料理			朝倉小学校	5	箭野 実沙	どうしてお金は生まれたの
	歴史	横浜小学校	6	植田 栞凪	縄文土器を作って水が沸とう するのか実験してみよう!!	秦小学校	3	中上 野枝	とうげいでお皿とおちゃわんをつくる		
	産業・交通	五台山小学校	6	蒲原 拓樹	小学校のために作られた 国光トンネル	高知大学教育学部 附属小学校	4	永澤 悠空	すてきなハガキを作ろう		
	地域・福祉	横浜新町小学校	6	河添 真宙	おじいちゃんたちの茶畑を 守りたい	介良小学校	5	前野 祐緯	阿蘇火山について		
自由のふるさと賞	体験	横内小学校	6	マドン ティリー	沢渡茶との出会い	横内小学校	6	小角 涼太	万博について		
	環境	学校法人高知学園 高知小学校	1	細川 真衣	わたしができる3R	地域・福祉	はりまや橋小学校	3	濱渦 博行	ひじょう持ち出しぶくろを準備しよう	
		はりまや橋小学校	3	岡村尚多郎	ごみは、ごみばこに!! ごみひろいをして分かった事	一宮小学校	5	谷 悠妃	一宮小学校周辺の公衆電話		
立志社賞	産業・交通	小高坂小学校	2	松棚 悠信	けんがいナンバーだいしゅうごう!!	鴨田小学校	5	筒井ひかり	神田川の橋を全部調べてみたら...		
		鴨田小学校	5	一色 優汰	四万十川での川漁体験記	横浜新町小学校	6	川島 僚仁	高知発祥投網について		
		第四小学校	5	遠藤 圭太	高知のバスについて	植木枝盛賞	学校法人高知学園 高知小学校	1	中村 紘介	思い出のかしわじまを形にする	
		昭和小学校	5	佐藤 圭太	車づくりを見に行こう		地理・文化	鴨田小学校	1	森本 時加	みつけたどうろのふたいっぱいあったよ
夢・人・自由賞	人物	初月小学校	1	甲藤 早雲	三国志 関羽伝	神田小学校	5	遠山 悠月	神田地区の遺跡・史跡調査		
		高須小学校	3	谷口 彰	坂本龍馬を暗殺したのは誰?	義務教育学校 土佐小学舎	5	松本伊生里	Let's interview people who are visiting Kochi from other countries		
		春野東小学校	6	末次みのり	私の先祖は藤原鎌足	板垣退助賞	初月小学校	3	入交 智浩	長宗我部元親のしせきめぐり ～ぼくのご先祖さまをさがせ～	
		介良潮見台小学校	6	森澤 彩心	岩崎彌太郎		昭和小学校	3	濱川昌太郎	高知城と今治城	
		3	濱川水羽子	高知城と今治城							
潮江南小学校	6	楠瀬 耀	町名から知る昔の高知市	潮江南小学校	6	楠瀬 耀	町名から知る昔の高知市				
三里小学校	6	山崎 陽生	陽生の旅日記 2019年 by滋賀	三里小学校	6	山崎 陽生	陽生の旅日記 2019年 by滋賀				

出前授業に

行ってきました！



近年、学校と博物館の連携の必要性をよく耳にするようになりました。自由民権記念館も、学校との連携を模索しており、平成三〇年度に、小学六年生を対象とした学習用教材『板垣退助ブック』（以下『ブック』という。）を発行、市内に通学する全ての小学六年生に配布しています。そしてこの度、この『ブック』をきっかけに高知市立昭和小学校から依頼をいただき、当館学芸員が六年生に出前授業を行いました。

昭和小学校の六年生は、坂本龍馬や板垣退助などを中心に、日頃から土佐の歴史について詳しく学習されており、特に今年度は『ブック』を活用した学びが行われています。今回の授業では「新聞の葬式」を詳しく取り上げられるとのことで、「新聞の葬式と土佐の自由民権運動」について、ゲストティーチャーとしてお話を

をしてきました。

お伺いしたのは、二〇一九（令和元）年一月。少し肌寒くなりはじめた時期でしたが、子どもたちは元気いっぱいです。授業の中でも、先生の様々な問いに積極的に答えています。新聞の葬式の様子が描かれた絵を見ながら、どんな人たちが参加しているか、なぜ葬式なのか、なぜ土佐で行われたのか、新聞の葬式を通して、自由民権運動に関わった人々の感情を想像し、当時に思いを馳せます。

当館からは、資料を通して当時の雰囲気や人々の思いを想像してもらいたいとの思いから、『高知自由新聞』（明治一五年七月一五日）の複写を持参しました。『高知新聞』の葬式の広告や、発行禁止を知ったレストラン自由亭から高知新聞編集局に「ビステキ一〇人前」が贈られた、という記事を紹介。子どもたちからは、こうした当時のエピソードに驚きの声があがりました。

余談ですが、学芸員が登場する際、先生の「今日は特別ゲストを呼んでいます。」との紹介に、子どもたちの反応は「え、誰？ 板垣退助!」。子どもたちの中に自然と退助の名前が浸透していて、とても感動したことでした。

今後も、学習用教材の製作や学芸員の出前授業など、様々な方法で学校との連携を深め、当館を活用いただけるよう、取組を進めていきたいと思えます。

資料紹介

鹿児島記間内賊兵激戦之図（当館蔵）

一八七七（明治一〇）年四月五日、当時、浅草に居住していた山崎年信（別名徳三郎。以下「年信」）によって描かれた『西南戦争錦絵』の一つである。田原坂の戦いと並行し、同年二月二十六日から三月二一日までの二四日間、激しい攻防戦が繰り返された山鹿口の戦いの一場面を描いたものである。右図上の説明書には、「文明の開化の御代の有難さしらずに薩兵の旧平士族が熊本にその名も高き山鹿口ふん戦日々たえまなく、賊徒の内にくわりし西京力士に貴中に朝男山市五郎ら弟子共およそ二百名、暴動方の先手となり畳を持って玉をよけ我が官兵の横間より犬猪子武者が切手出て、一たび官軍くづれしが陸軍少将三好君野津君しらがかひ裁なし賊軍そのばを引上たり」とあり、西郷隆盛率いる薩摩軍が畳を楯に防戦している局面が表わされている。

西南戦争錦絵は、絵師が現地で直接取材をして描いたものではなく、新聞報道等をもとに、「豊富な想像力をかりたてて、奇想天外な画をかいた」（小西四郎編『錦絵 幕末明治の歴史 第八巻』）ものであるため、資料としての価値は低いとされているが、絵師たちの想像力と表現力の豊かさには驚かされるものがある。

西南戦争の勃発以降、中央の各新聞社は、こぞつて報道合戦に突入しているが、庶民の間では、西南戦争関連の読み物や錦絵が大流行した。なかでも西南戦争錦絵は、明治一〇年に出版されたものだけでも三〇〇点は優に超えるといわれている。中心となった絵師は、月岡芳年や

揚州周延などであるが、年信の西南戦争錦絵は、「これまでに確認できただけで三二点あり、制作点数順でいえば十指にはいる」（山崎年信伝備考『土佐史談第二四三号』）ようである。さらに年信は、錦絵だけではなく『鹿児島実記一夕話』、『鹿児島征討実記』、『鹿児島大激戦記』、『鹿児島軍配』、『薩摩軍配』、『西郷隆盛一代記』など、いずれも同年に出版された西南戦争関連の刊本にも、多くの挿絵・白絵を残している。

なお、年信は、一八七〇（明治三）年頃、月岡芳年の門人となり、後に水野年方、稲野年恒、右田年英とともに「芳年門の四天王」と称された実力派の絵師である。短期間、高知に赴き、一八八三（明治一六）年一月二四日から『土陽新聞』連載の「汗血千里の駒」の挿絵を担当し、今号で紹介した藤原信一を育てるなど、高知における新聞挿絵の先駆者として大きな役割を果たしている。



「U字工事」さん 来館

その土地ならではの穴場を探る紀行番組「ザ・穴場ツアー」の撮影で、U字工事さんが来館しました。今回、高知編の穴場として取り上げられたのは、鏡川の河口付近に浮かぶ小島、丸山台。自由民権運動とも縁が深い丸山台について調べるために、2人が当館を訪れました。ヨーロッパから帰った板垣退助が高知へ戻ってきた際、盛大な帰国歓迎会が開かれた丸山台付近の写真などを通じて、その歴史に触れていただきました。



出版物のお知らせ

3月末発行

『高知市立自由民権記念館紀要 第25号』

500円(税込)

●論文

駐ドイツ大使館付陸軍武官小松光彦の軌跡
—二・二六事件、日中戦争から大戦下のベルリン—
……………岸本 繁一

●報告

私立国会論と詔勅煥発の衝撃 ……………松岡 僖一
全国自由民権研究顕彰連絡協議会について
—結成から第一回大会までの経緯—
……………福井 淳・筒井 秀一

●資料紹介

「沖八潮関係資料」 解題 ……………吉田 文茂

『遺跡が語る高知市の歩み 高知市史考古編』 高知県出版文化賞・特別賞を受賞

高知市史編さん委員会考古部会の調査研究成果をまとめた本書が、令和元年度(第64回)高知県出版文化賞・特別賞を受賞しました。『絵図・地図編』『民俗編』に続く第3弾で、先史時代から近現代に至るまで、最新の発掘調査を元に、考古学から見た高知の歴史を描いています。当館でも販売中ですのでぜひ御一読ください。



またまた「泥めんこ」出現

「自由のともしび」№86の資料紹介でも取り上げた「泥めんこ」ですが、2019(令和元)年に実施された横堀公園(高知市菜園場町)の発掘調査においても、泥めんこなどの玩具が多く出土しました。

ここ5~6年の発掘調査で「自由」「板垣」といった泥めんこが、旧高知城下の方々に散見されたことは、大変興味深いところです。



行事予定 (春・夏)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。
◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

開催中~4月5日(日)

■市制130周年記念企画展

「町並みと暮らし展
—地図と写真でたどる高知市—」

会場: 2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

4月25日(土)~2021(令和3)年3月28日(日)

■企画展

「“漫画”が描いた明治の時代」

会場: 2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

7月下旬予定

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦
※学校を通じて申込受付

4月29日(水・祝) 15:10~17:00

申込不要

◆自由民権記念館友の会総会・記念講演会
「近代文学の夜明け—
土佐の山間から自由の主張」

講師: 川島禎子氏
(高知県立文学館主任学芸員)
会場: 1階研修室
※友の会総会 13:30~15:00

5月30日(土) 14:00~16:00

申込不要

■高知近代史研究会第102回研究会
企画展「“漫画”が描いた明治の時代」
記念講演会
「汗血千里の駒」の挿絵画工
山崎年信の画業」

講師: 中村茂生氏
(高知近代史研究会会員)
会場: 1階民権ホール